

第1章 東日本大震災における岩手県宮古市の災害対応

－受援（応援の受け入れ）の観点から－

1. 本報告の目的

当センターでは、東日本大震災で幅広く展開された市町村間の応援や受援（応援の受け入れ）の実態を把握するため、これまで下記の調査を行ってきた。^(注)

- 応援側の市区町村に対するアンケート調査（平成23年度）
- 応援側と受援側の間で調整を行った機関に対する聞き取り調査（平成24年度）

平成25年度は、受援側の市町村の実態を把握するための聞き取り調査を実施した。調査は、既に災害対応に関する検証を行うなど基礎的な情報が豊富な岩手県宮古市（以下「宮古市」という。）を対象とし、初動期の主要業務に関する受援の状況等について、当時直接業務に携わった方々から話を伺った（表1-1）。本稿は、その結果を報告するものである。

なお、本大震災で被災した各市町村の被害は多様であり、ひとつの市町村だけの調査で災害対応のあり方を一般化することは難しい。今後、効果的な受援体制の構築に向けて、宮古市とは異なる態様の被害を被災した市町村についても調査が必要だと考えている。

表1-1 聞き取り調査の概要

日時		調査内容	調査対象
平成25年	11月18日（月）	15:00-17:00	災害対策本部室の活動
	11月19日（火）	13:00-15:00	医療・保健活動
		16:00-18:00	食料・物資の調達・集積・配分活動
	11月20日（水）	9:30-11:30	避難所の開設・運営活動
		11:30-12:00	災害対策本部室の活動

(注) 調査対象は、いずれも大震災発生当時に記載の所属で勤務されていた方々である。

2. 宮古市の概況と被害

(1) 位置・面積・人口

宮古市は、岩手県の沿岸部ほぼ中央、本州では最東端に位置する（図1-1）。平成の大合併を経て、面積は約1,260km²と全国で8番目に大きな市となった（平成17年6月に旧宮古市、旧田老町、旧新里村が合併。平成22年1月に旧川井村が合併）。人口は、大震災前の平成22年10月1日時点で60,328人であったものが、平成25年12月1日時点では57,503人（約5%減）となっている（住民基本台帳）。



図1-1 宮古市の位置

(2) 地震・津波の状況

本大震災では、宮古市茂市で震度5強、五月町、鉾ヶ崎、長沢、田老、川井、門馬田代で5弱を記録した。津波の最大波は、3月11日15時26分に高さ8.5m以上を記録した

2 第1章 東日本大震災における岩手県宮古市の災害対応

(後日現地でも回収した津波観測点の記録の分析結果)。遡上高は、重茂姉吉地区で40.5mという発表があった(東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ)。浸水区域は10km²で、建物用地・幹線道路用地の21%に及んだ(国土地理院調べ)。

(3) 人的被害・住家被害

大震災は、沿岸部を中心に宮古市に甚大な被害をもたらした。平成24年8月3日現在で、死亡届出者407人、死亡認定者110人、行方不明者96人となっている。また、住家の全壊は5,968棟、大規模半壊は1,335棟に上っている(表1-2)。

表1-2 人的被害・物的被害の状況

人的被害(人)				住家等被害(棟)				
死亡届出者	死亡認定者	合計	行方不明者	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	合計
407	110	517	96	5,968	1,335	1,174	611	9,088

※死亡認定者と行方不明者は重複している。「死亡認定者」110人と「行方不明者」96人の差14人は、死亡認定の届出後に遺体またはDNA鑑定で行方不明者本人と特定された方の人数である。

【出典】宮古市『東日本大震災の「記録」～岩手県宮古市～ 2011.3.11～2013.3.10』平成25年3月

(4) ライフライン被害

大震災発生とともに約16,000件の大規模停電が発生した。3月14日に災害拠点病院である県立宮古病院と県沿岸広域振興局(宮古地区)が復旧した。市役所本庁舎の復旧は同月25日であった。4月30日に市内の電力は完全復旧した。

上水道については、浸水や停電の影響で津波浸水区域を中心に断水した。3月14日に復旧率は60%、同月24日に90%となり、4月15日に100%となった。

通信については、宮古と田老のNTT局舎が被災し不通となった。固定電話は、3月30日に宮古局が復旧し、翌31日には市役所光ケーブルも復旧した。市内の全ての地区で復旧したのは4月15日だった。携帯電話は、3月21日に重茂地区、田老地区以外でNTTドコモが復旧し、4月15日にはNTTドコモ、auが完全復旧、ソフトバンクが仮復旧した。

道路については、3月14日に国道が開通し、市道も国道・県道と連携して主要な路線から順次啓開作業を行った。3月23日には公道上の車両の撤去を完了し、3月29日には概ねの啓開を終えた。

(5) 職員及び庁舎の被災

宮古市では、大震災による直接的な職員の人的被災(死亡・行方不明)はなかった。本庁舎については、津波による浸水被害(1階部分)や長期にわたる停電(3月25日復旧)があったが、壊滅的な状況ではなく移転せずに災害対応を進めることができた。なお、市役所近くの保健センターは、津波により使用することができなくなった(後述)。

(6) 避難所

避難所は最大時85ヶ所設置し、8,889人が避難した(3月14日)。避難所では、食事提供、炊き出し、給水、毛布提供、日用品提供、仮設トイレ設置、入浴支援、医療、衛星携帯電話設置などを行った。数段階の集約を経て、8月10日に全ての避難所を閉鎖した。